



あいさつする県産業部の望月理事

静岡県産業部振興局が2008、09年度事業として位置づけている富士山麓(ろく)の地域資源を活用した高附加值の農林水産物の創出、魅力ある観光産業づくりをテーマにした戦略課題研究「富士山」の第2回研究代表者会議が29日、富士宮市役所で開かれ、研究の進ちょく状況や意見交換を行った。大半の研究課題が富士宮地域を舞台にしたもので、研究成果が具現化していくれば富士宮市の産業・観光振興に大きく寄与することが期待されている。

県政の長期的・広域的な政策課題に、国・大学・NPO法人など

が参加し、富士山にかかる新たな産業(観光ニーズなど)振興に向け、具体的な政策提言を図るの

が狙い。静岡空港の開港、富士山の世界文化遺産登録など富士山を取り巻く社会環境の変化に合わせ、新たな観光ニーズなどに対応していくこうというところだ。

研究団体(機関)には、静岡県畜産技術研究所(猪之頭)、日本大学・富士自然教育センター(佐折)、富士常葉大学、東京大学、NPO法人静岡県森林・林業研究センター(浜松市)の8団体が名を連ねてお

り、△朝霧高原の草原

富士山の新観光戦略研究 対研究 大半が富士宮市舞台に

県産業部振興局

同日の会議では午前中に朝霧高原、猪之頭、かされた」とし、自然・田貫湖周辺などを視察したあと、富士宮市役所で研究の進ちょく状況などを各研究代表者が報告した。

この中で、富士山固有の自然環境を生かした新しいエコツーリズムの創出をテーマにしている富士常葉大学の大久保あかね准教授が、報告した。

また、NPO団体として研究に参加している「まちづくりトップランナーふじのみや本舗」の望月誠一郎さん

全・復元をベースにした新たな自然体験・観光教育・レクリエーション・エコツーリズムの開発▽環境型富士登山プログラムの開発▽湧水(ゆうすい)を生かした観光産業の創出などいずれも富士山の恵みを生かした研究テーマを掲げている。

（観光学）は、単に自然環境だけでなく、源頼朝の巻狩りなど歴史・文化を絡めた新しいタイプのエコツーリズムの可能性を指摘したほか、「宿泊施設が少ないとされているが、体験型の宿泊施設はたく

立などについて報告。商品化したものを世に情報発信する際の工夫

が、製品の把握など)の確立などについて報告。ため県の引き続きの研究活動に協力したい。

冒頭あいさつに立った県産業部の望月利孝理事は富士山の魅力を生かし、新たな産業・観光振興につなげて、来るよう研究活動に期待を寄せるとともに、来賓として出席した小室直義市長は、研究テーマの大半が富士宮市を舞台にしたものであるとし、「市としても研究活動に協力したい」と述べた。

地元NPO団体が参加